

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人静岡県国際交流協会

1. 事業名称

外国人社員向け地域連携日本語教室・日本語支援者スキルアップ研修会・静岡県 日本語ボランティアセミナーの開催

2. 事業の目的

当協会が中核的役割を担い、日本人社員・外国人社員・日本語支援者の3者の連携をつくり、より多くの外国人住民が地域社会との接点をもつことを支援する。また、日常生活を豊かにするための日本語支援について再考する研修会及びセミナーを実施し、日本語支援者同士の情報共有を図るとともに、参加者が地域日本語教室の存在・活動意義について多角的な視点をもつことを目的とする。

3. 事業内容の概要

①「外国人社員向け日本語教室」では、従業員同士のコミュニケーションがより円滑になり、相互理解を深めることを目的とした日本語教室を開催する。日本語教室の開催場所は企業とするが、参加対象者は周辺に居住する外国人も含める。また、教室活動の一環として、地域で行われている行事に参加し、さまざまな人とコミュニケーションを図る機会を創出する。②日本語支援者を対象とし、コミュニケーション活動の手法を学ぶ研修会を開催する。③「静岡県・日本語ボランティアセミナー」を開催し、地域の日本語支援者同士がお互いの活動内容を発信し合い、情報を共有する機会を設ける。また、地域日本語教室の存在意義について「日本語を教える」以外の役割や可能性について協議し、日本語支援活動について新しい気づきを得るための具体的な手法や事例を学ぶ。以上の3つの取り組みを通じて企業における日本語教室の開催事例をふやし、労働中心の生活を送る外国人の状況をふまえて彼らの必要とする日本語学習を支援できる人材を増やしていくとともに外国人の日本語習得の重要性について理解する人材の輪を広げていく。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年6月18日 13:30～15:30	2時間	(公財)静岡県 国際交流協会	中村謙、富田貴子、 佐々木綾、鈴木久美 子、古橋哉子	今年度の開催事業と進行予定について	事業実施における連携の可能性について意見交換を行う
2	平成25年11月14日 10:00～12:00	2時間	(公財)静岡県 国際交流協会	中村謙、富田貴子、 佐々木綾、鈴木久美 子、古橋哉子	事業進行状況の説明とボランティアセミナー運営について話し合い	日本語教室の新着状況と課題、セミナー広報手段について意見交換
3	平成26年3月6日 10:00～12:00	2時間	(公財)静岡県 国際交流協会	中村謙、富田貴子、 佐々木綾、鈴木久美 子、古橋哉子	実施事業の振り返りと反省、来年度について	日本語教室運営における他団体との連携について、ボランティアと日本語指導者との更なる運営について

5. 取組についての報告

○取組1:外国人労働者のための地域連携日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

当協会が全体のコーディネータとなり、企業に広く呼びかけ、日程や会場の調整を行う。併せて、県東部、中部、西部それぞれの日本語支援グループと連携を図り、講師及び教室に参加するボランティアを募る。日本語ボランティアの活動機会を創出し、企業・日本語支援団体・当協会の連携を深め、外国人社員の日本語力の向上を図るとともに、日本人社員の日本語学習支援活動に対する理解の増進を目指す。日本語教室の内容には地域住民と接点をもつことを心がけ、多くの方が日本語教室について関わるよう工夫する。

(2) 取組内容

日本語レベルが低い外国人社員との意思疎通に苦労している企業が多く、企業からの要請に基づき、外国人社員向けの日本語教室を6箇所で開催した。実施前には、学習者も外国人社員に限定しないよう、周辺に居住する外国人へも呼びかけを行い、それぞれの地域日本語教室コーディネータと連携を図って講師とボランティアを調整し、企業担当者と打合せを繰り返して内容を考えた。

日本語教室の開催は、日本人社員も様子を見に来る等協力をいただき、なるべく開かれた場として実施するよう工夫した。日本語教室では、外国人の生活実態にあった日本語支援活動を行うために、学習者からの要望を聞いた上でカリキュラムを組み、地域の行事への参加や文化を知る時間も取り入れた。

日本語教室の実施に協力的な企業においては、日本人社員を対象とした研修会を実施し、外国人社員とコミュニケーションを図る上での注意点などについて理解を深める「企業版 やさしい日本語研修会」を実施した(一箇所)。

なお、日本語教室の継続開催については企業と当協会が実施費用を負担し合うことで、段階を経て企業の役割としての日本語支援の重要性を働きかけ、実施していくよう調整をした。

(3) 対象者 外国人従業員

(4) 参加者の総数 6人(カヤ精密工業)

(出身・国籍別内訳 中国6人)

(5) 開催時間数(回数)24時間 (全16回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年6月1日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	自己紹介	自分の好きなものを紹介、話したことを文章にする	長谷川恒子	
2	平成25年6月8日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	物の数え方	量詞を使って物がどのくらいあるか、身の周りに何がどのくらいあるか	長谷川恒子	
3	平成25年6月15日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	量詞、数、時間	時間と動詞を使って自分の行動を話す、一日の過ごし方	長谷川恒子	
4	平成25年6月22日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	形容詞	自分の国、日本のこと、身の回りのことを話す	長谷川恒子	
5	平成25年6月29日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	数字、カタカナ確認	チラシを見ながらカタカナと数字の読み方を確認	長谷川恒子	
6	平成25年7月6日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	聴解、疑問詞	プリントの文章の聞き取り、行きたいところの発表	長谷川恒子	
7	平成25年7月13日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	所在、動詞変化	部屋の中、ふるさとの家にあるもの、動詞の変化確認	長谷川恒子	
8	平成25年7月20日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	5人	中国5人	読解	ほしいもの、食べたいもの、トピックを読む	長谷川恒子	
9	平成25年7月27日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	動詞	指示、依頼、行動を順に言う	長谷川恒子	
10	平成25年8月3日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	屋外学習	日本の建物と文化を知り、日本人と交流する	長谷川恒子	
11	平成25年8月10日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	好きなこと	好きなこと、できることを話す	長谷川恒子	
12	平成25年8月17日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	日本文化体験	地域住民の協力を得て、ゆかたを着る	長谷川恒子	
13	平成25年8月24日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	過去について	自分の経験を話す	長谷川恒子	
14	平成25年9月7日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	あげます、もらいます	春節、誕生日、結婚式で何をもらうか、あげるか	長谷川恒子	
15	平成25年9月14日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	好きなこと、将来	将来の夢、3年後の目標について	長谷川恒子	
16	平成25年6月8日 10:00~11:30	1.5時間	(株)カヤ精密工業	6人	中国6人	振り返り	学習内容を振り返り、感想文を書く	長谷川恒子	

(7) 参加者の募集方法

国際研修協力機構(JITCO)の会議にて事業説明をしたり、外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 感想を述べたり、正しく書いたりする練習をし、発表に慣れるようにした



↑ 近くのお寺や名所を周り、日本文化や歴史について触れる機会を設けた

(4) 参加者の総数 3人(檜工業株式会社)

(出身・国籍別内訳 インドネシア3人)

(5) 開催時間数(回数)16.5時間 (全11回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月6日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	質問できる?	どうやって、どうしてと聞いて答えられるように練習	市江 碩	
2	平成25年8月3日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	できること	自分のできること、できないことを文章にして練習	市江 碩	
3	平成25年8月24日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	事前準備	読んでおきます、など受け答えの練習	市江 碩	
4	平成25年9月7日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	~しよう	食べよう、勉強しよう、など呼びかけや行動予定について勉強	市江 碩	
5	平成25年9月28日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	助言について	~しないほうがいいですよ、の表現練習	市江 碩	
6	平成25年10月5日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	質問について	自分の分からないことを聞き、答えさせるという練習	市江 碩	
7	平成25年10月26日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	作文の練習	日記で分からないところについて質問し、正しい文章を練習	市江 碩	
8	平成25年11月17日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	3人	インドネシア3人	あとで	食べた後で、買ったあとで、など練習問題を行う	市江 碩	

9	平成25年12月8日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	2人	インドネシア2人	~れば	もし~すればの練習	市江 碩	
10	平成25年12月22日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	2人	インドネシア2人	~できるようになりたい	自分の体験から目標をいい文章をつくる	市江 碩	
11	平成26年1月18日 10:30~12:00	1.5時間	檜工業(株)	2人	インドネシア2人	振り返り	感想を書き、発表	市江 碩	

(7) 参加者の募集方法

JITCOの会議にて事業説明をしたり、外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 普段、読み書きの機会がなく、漢字の習得の希望があったので、読み書きに重点をおいた



↑ 全体朝礼で作文を読む機会を設けた

(4) 参加者の総数 33人(湖西国際交流協会)

(出身・国籍別内訳 ベトナム13人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、その他13人)

(5) 開催時間数(回数)24時間 (全16回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月8日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	25人	ベトナム12人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明9人	意見を述べる	~してもいい、~しなくてもいい、意見が同じ場合、違う場合の話し方を学ぶ	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
2	平成25年9月15日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	28人	ベトナム13人、インドネシア1人、ペルー1人、中国1人、不明12人	意見を述べる	読解と聴解の練習、グラフを読み取ったり、イントネーションによる違いを対話で練習	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
3	平成25年9月22日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	21人	ベトナム12人、インドネシア1人、ペルー1人、中国1人、不明6人	苦情をいう	どのような状況のときにどのような言い方をするか、ゴミの分別回収と湖西市の実情を話し合う	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
4	平成25年9月29日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	22人	ベトナム13人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明5人	地域住民との交流	ふれあい広場の「にほんごカフェ」へ参加し、地域住民と交流	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
5	平成25年10月6日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	26人	ベトナム12人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明10人	リサイクル	日本と母国のリサイクルの状況を話し合い	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
6	平成25年10月13日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	20人	ベトナム11人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明5人	仕事について	自分の仕事について話し合い、聴解練習	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
7	平成25年10月27日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	23人	ベトナム11人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明8人	環境を考える	絵の中から問題文に当てはまる言葉を探し出したり、会話文が正しいかを見分ける学習	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
8	平成25年11月3日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	19人	ベトナム9人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明6人	自己紹介と交流	新規ボランティア加入のため、趣味と家族についての対話をする。言葉探しゲームで交流	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸

9	平成25年11月10日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	21人	ベトナム10人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明7人	計画を立てる	次回のイベントのための計画について話し合い、聴解練習	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
10	平成25年11月17日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	32人	ベトナム12人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明16人	交流会	料理を通して手順の言い方を学ぶ。屋外で交流活動	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
11	平成25年11月24日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	17人	ベトナム10人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明3人	感想	交流会の感想文を書き、発表する	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸
12	平成25年12月8日 10:00~12:00	2時間	鷺津駅前事務所	24人	ベトナム12人、インドネシア2人、ペルー1人、中国1人、不明8人	お別れ会	学習者の数人が帰国のためこれまでの日本語教室の振り返りとお別れ会を実施	長坂正人 佐藤 博	松尾太丸

(7) 参加者の募集方法

JITCOの会議にて事業説明をしたり、商工会議所の協力を得て外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 近隣の住民にボランティアとして参加してもらい対話活動を行った



↑ 常時20人の学習者が参加

(4) 参加者の総数 20人(焼津公民館)
(出身・国籍別内訳 中国20人)

(5) 開催時間数(回数) 16時間 (全8回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年10月6日 10:00~12:00	2時間	焼津市中央公民館	15	中国15人	自己紹介、日本の地理	会話をしながらレベルチェック	田中未央子	
2	平成25年10月13日 13:30~15:30	2時間	焼津市中央公民館	12	中国12人	あいさつ	友達同士の会話の相槌と返答の練習、季節・天気にあわせた挨拶、会話作りの練習	田中未央子	
3	平成25年10月20日 13:30~15:30	2時間	焼津市中央公民館	13	中国13人	友達との会話、敬語の違い	魚加工業なので、調理方法や味に関する語彙を学ぶ、出身地について説明をする、敬語を使って自己紹介をグレードアップさせる	田中未央子	
4	平成25年10月27日 13:30~15:30	2時間	焼津市中央公民館	16	中国16人	会社での会話	いろいろな形の挨拶になれる、N2N3練習	田中未央子	
5	平成25年11月3日 10:00~12:00	2時間	焼津市中央公民館	10	中国10人	自分の家族	親族関係の言葉を覚える、加増校正を相手に教える。N2N3練習	田中未央子	
6	平成25年11月17日 10:00~12:00	2時間	焼津市中央公民館	9	中国9人	頼む、お願いの会話	依頼表現の練習、場面・相手による敬語表現の確認、返品の仕方の練習	田中未央子	
7	平成25年11月24日 13:30~15:30	2時間	焼津市中央公民館	4	中国4人	敬語、接続詞	会社での電話のやりとりのロールプレイ、接続詞の解説と使い方の練習	田中未央子	
8	平成25年12月8日 13:30~15:30	2時間	焼津市中央公民館	19	中国19人	お礼と謝り	ありがとうございますのバリエーションを知り、勉強してきた場面会話を発表する	田中未央子	

(7) 参加者の募集方法

JITCOの会議にて事業説明をしたり、外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 魚加工業のさまざまな企業に勤める
中国人実習生



↑ ロールプレイを織り交ぜ、会話と漢字
習得の授業を行った

(4) 参加者の総数 12人(ユニクラフトナグラ(株))

(出身・国籍別内訳 インドネシア12人)

(5) 開催時間数(回数)20時間 (全11回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年10月6日 15:00~16:30	1.5時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	自己紹介、休 日の過ごし方	レベルチェック、休日の過ごし方 について会話練習	高林泰央	野澤秀美
2	平成25年10月13 日15:00~16:30	1.5時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	もう~しまし たか	もう~しましたか、まだ~いませ ん、を使えるように場面練習	高林泰央	野澤秀美
3	平成25年10月20 日15:00~16:30	1.5時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	遅刻・欠席・ 早退	理由を述べて、遅刻・欠席・早退を 伝える練習、漢字テスト	高林泰央	野澤秀美
4	平成25年11月3日 15:00~16:30	1.5時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	人・物の場所 を伝える	身の周りのものがどこにあるか、伝 え方の練習、プリント学習	高林泰央	野澤秀美
5	平成25年11月10 日15:00~17:00	2時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	あげる、もら う、くれる	ロールプレイであげる、もらう、くれ るの練習	高林泰央	野澤秀美
6	平成25年11月17 日15:00~17:00	2時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	助詞	漢字テスト、会話例の紹介と意味の 確認、プリントで助詞の学習	高林泰央	野澤秀美
7	平成25年11月24 日15:00~17:00	2時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	だけ、しか	~そうです、助詞「だけ」「しか」の使 い方の学習	高林泰央	野澤秀美
8	平成25年12月22 日15:00~16:30	1.5時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	年末年始	思い出について発表、感情を表すこ とばの語彙を増やす	高林泰央	野澤秀美
9	平成26年1月12日 15:00~17:15	2.25 時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	体調	自分のケガや体調の伝え方を学 ぶ、スピーチ原稿を考える	高林泰央	野澤秀美
10	平成26年1月19日 15:00~17:15	2.25 時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	知り合い	親しくない人との会話、話題にして はいけないことについて学ぶ。ス ピーチ原稿を考える	高林泰央	野澤秀美
11	平成26年1月25日 10:00~12:00	2時間	ユニクラフトナ グラ会議室	12	インドネシア12 人	スピーチコン テスト	職場上司にも参加してもらい、ス ピーチコンテストと交流会を行った	高林泰央	野澤秀美

(7) 参加者の募集方法

JITCOの会議にて事業説明をしたり、外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 全員、無欠席で教室に参加



↑ 最終日はスピーチコンテストを実施
日本人社員、配属先上司の前で披露

(4) 参加者の総数 6人(マガタ富士化成(株))

(出身・国籍別内訳 インドネシア6人)

(5) 開催時間数(回数)18時間 (全9回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年11月30日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	自己紹介	自己紹介、日本語教室で何を学びたいか話す	岡本千佳子	青島純江
2	平成25年12月7日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	健康、N4練習	健康をテーマに心がけていることなどを話した。幹事プリントで練習	岡本千佳子	青島純江
3	平成25年12月21日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	年末年始	冬休みの予定を話し合い、年賀状を書いた	岡本千佳子	青島純江
4	平成26年1月19日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	新年の抱負	今年の抱負を話し合い、習字を体験した	岡本千佳子	
5	平成26年1月26日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	私の一日	一日の過ごし方、休日の過ごし方をお互いに話す	岡本千佳子	
6	平成26年2月2日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	母国と日本の違い	日本にきて驚いたこと、違うことを話し合った。形容詞のカルタ	岡本千佳子	
7	平成26年2月9日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	行事	日本の行事、インドネシアの行事について話し合う。相手が知らないことをわかるように説明する練習	岡本千佳子	
8	平成26年2月23日 15:00~17:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	スピーチの練習	最終日の発表に向けて「将来の夢」をテーマにスピーチ原稿を書いた	岡本千佳子	
9	平成26年3月9日 10:00~12:00	2	マガタ富士化成(株)	6	インドネシア6人	スピーチの披露、振り返り	企業担当者に同席してもらい、前回書いた	岡本千佳子	

(7) 参加者の募集方法

JITCOの会議にて事業説明をしたり、外国人労働者を受け入れている企業宛てにチラシを送付した

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 習字体験



↑ 対話型の日本語活動

(9) 取組の目標の達成状況・成果

企業との連携においては細かな準備や連絡調整など、直接日本語支援グループが企業とやりとりするのは難しく、当協会がコーディネートすることで両者をつなぎ、実情に合った日本語支援活動ができた。日本語教室と指導者のマッチングは各地域の日本語教室コーディネータ(中核メンバー)と連携を図り、対応することができた。日本語教室の運営については、日本語指導者・企業担当者・当協会担当者として毎回の教室報告書を通して情報を共有し、方向性を確認しあった。日本語教室の継続的な実施については、費用負担も含めて検討するという企業もあり、日本語教室の実施前と比べると日本語教室を実施した企業及び日本人社員の地域日本語教育、日本語教師に対する理解は増進された。

(10) 改善点について

日本語教室の開催を希望する企業に対しては、学習者の出席を確認すること、会場の確保、可能な限りの教室への参加など、協力を確認をしてから実施したが、企業の協力度や意識は温度差が生じた。コミュニケーションの問題は外国人社員の日本語能力だけではないため、今後は日本語教室の開催を希望する企業に対しては、日本人社員向けの外国人社員とのコミュニケーションについて学ぶ研修会も実施する、日本語教室にも具体的な回数を示して出席を要望する、など更に日本語教室を「見える化」させる工夫と提案をし、互いの協力体制を明確にしていきたい。

○取組2: 日本語支援者スキルアップ研修会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本語支援者に「対話型活動」という従来の日本語指導とは違う新しい活動形式を学んでもらい、既存の日本語教室活動の見直しを図る。また、違う地域で活動する日本語支援者同士が自分の所属グループ以外の日本語教室を見学したり、一緒に学ぶことでお互いの協力体制を強化する。

(2) 取組内容

日本語教室の運営に関わっている人たちを中心とし、対話型の日本語活動について学ぶ研修会を実施し、地域日本語支援活動に有効な手立てを学ぶ機会を設けた。特に本県東部地域の日本語支援グループは学習者離れや運営、活動内容に課題を抱えているグループが多いため、支援者同士の連携推進を図り、活動を発展させるためにも三島市を会場として研修会を実施した。

研修会では、学習者の視点に立ち、日常生活で日本語を使えるようになるためにはどのような教室活動を実施したらよいか、という点を重点テーマとし、対話型で進める具体的な進行方法について学ぶ「講義(全5回)」と実際に対話型日本語教室へ参加し体験する「実習(全1回)」、学習者へ試してみる「実践(全1回)」の3本立ての内容で実施した。「実習」については浜松市・磐田市で先駆的に対話型の日本語活動を行っている日本語教室へ実際にボランティア参加し、体験した。

(3) 対象者 外国人への日本語支援活動に関心のある方

(4) 参加者の総数 31人

(出身・国籍別内訳 日本30人 ブラジル1人)

(5) 開催時間数(回数) 21時間 (全7回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月7日 13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	28人	日本27人、ブ ラジル1人	日本語ボラン ティアに求め られる活動と は?	日本語教育のこれまでの流れ、日 本語教師とボランティアの違い、日 本語教室での学習が実生活で活か されない原因などについて学ぶ	衣川隆生	
2	平成25年9月28日 13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	26人	日本26人	「対話型」つて なに?	対話型活動の概要を学びコツと難し さをワークショップを通して実感した	衣川隆生	
3	平成25年10月5日 13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	27人	日本26人、ブ ラジル1人	具体的な手法 I	人間関係を構築できるためのコミュ ニケーションを考え、対話型から読 み書きへつなげる工夫について学 んだ	北村祐人	
4	平成25年10月12 日13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	28人	日本27人、ブ ラジル1人	具体的な手法 II	磐田国際交流協会、多文化共生社 会をめざす会が実践している手法を 学んだ	鈴木ゆみ、 山田国明	
5	平成25年10月20 日13:30~16:30	3時間	磐田市、浜松 市中区佐鳴台	26人	日本25人、ブ ラジル1人	視察	磐田国際交流協会、多文化共生社 会をめざす会が実施している日本語 教室へボランティア参加させていた だき、現場指導者等と意見交換をし た	磐田国際交 流協会、多 文化共生を めざす会	
6	平成25年11月2日 13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	23人	日本22人、ブ ラジル1人	実践	外国人21人をゲストに迎え、対話型 活動を実践してみた	山田国明	
7	平成25年11月16 日13:30~16:30	3時間	三島市民文化 会館	27人	日本26人、ブ ラジル1人	振り返り	これまでの研修会を振り返り、実践 体験の見直しと共有を行った。交流 と言語習得のバランスについて学び を得た	北村祐人	

(7) 参加者の募集方法

東部地域を中心とし、県内図書館、公民館、国際交流協会等へちらしを配架した。沼津市及び三島市が発行する広報誌にも受講生募集の記事を掲載していただいた。東部日本語ボランティアネットワークの協力を得てメーリングリストでも研修会実施の情報を提供した。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 対話型の日本語活動について
具体的に学んだ



↑ 実際に外国人をゲストに迎え
実践から難しさと意義を学んだ

(9) 取組の目標の達成状況・成果

講義、実習、実践の3本立てで研修を企画、実施したため、体験を通して学びを深めることができた。毎回の受講生の出席率もよく、アンケートからも大変好評を得た。東部地域では文型積み上げ型の日本語教室が多いが、今回の研修を機に対話型活動を取り入れた教室もあり、日本語学習支援を見直し、改善を図る機会ともなった。企画から運営まで東部日本語ボランティアネットワークのメンバーと協働で携わることで、既存のボランティア同士の情報交換にも役立った。広く広報を行ったため、新規参加者も多く、新たな仲間づくりと支援者同士の連携を深めることができた。東部地域全体の日本語支援活動の活性化につながった。

(10) 改善点について

今回初めて対話型活動について学んだ参加者が多く、今後各自で試みていく上で疑問がわくことがあると思われる。東部日本語ボランティアネットワークを中心として、各参加者とは今後も連絡を取り合い、フォローアップの研修会などの機会を設けていくことを考えたい。

○取組3: 静岡県・日本語ボランティアセミナー2014

(1) 体制整備に向けた取組の目標

県内には約70の日本語グループと約120の日本語教室が開かれているが、グループの垣根を越えてボランティアが顔を合わせ情報共有をしたり、協議したりする機会が少ないため、本セミナーをとおして地域日本語教室同士の横のつながりを発展させる。多文化共生、外国人住民が抱えることばの問題についてひとりでも多くの方に関心を高めてもらうことを目標とする。

(2) 取組内容

「生活者としての外国人」の内容をふまえ、これからの日本語支援や日本語教室のあり方について多角的な知見を得ることを目的とし、基調講演(午前)とテーマ別に3つの分科会(午後)を開く2部構成で実施した。

基調講演「ともに学び、ともに変わる日本語学習支援」講師 山田泉(法政大学)

分科会「どうつくる? やさしく楽しいわくわく教室」講師 清ルミ(常葉大学)

分科会「作ってみよう! 日本語指導プラン」講師 鈴木美香、五十嵐恵美(豊橋市教育委員会)

分科会「東日本大震災の経験から地域日本語教室の役割を考えるー宮城の事例をもとに」講師 大泉貴広(宮城県国際化協会)、佐藤金枝(南三陸町国際交流協会)

(3) 対象者 だれでも

(4) kou

(出身・国籍別内訳 フィリピン2人、ブラジル2人、中国6人、ベトナム1人、日本160人)

(5) 開催時間数(回数) 4.5 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年1月13日 10:00~11:30	1.5	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	158	フィリピン2人、 ブラジル2人、 中国6人、ベトナム1人、 日本147人)	これからの日本語学習支援	多文化共生社会における日本語学習支援活動について諸国の政策を知り、現場支援者に求められる活動と意識を学ぶ	山田泉	
2	平成26年1月13日 13:30~16:00	2.5	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	69	フィリピン2人、 中国1人、 日本66人)	日本語学習活動の工夫	学習者がまた来たいと思うような日本語学習活動について考え、ワークショップを通して具体的な手法を学ぶ	清ルミ	
3	平成26年1月13日 13:30~16:00	2.5	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	41	中国1人、 ブラジル2人、 日本38人)	年少者への日本語・学習支援	子どもの日本語・学習支援に役立つ教材・教具、指導方法についてワークショップ形式で学ぶ	鈴木美香 五十嵐恵美	
4	平成26年1月13日 13:30~16:00	2.5	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	30	中国4人、 ベトナム1人、 日本25人)	震災と日本語教室	東日本大震災の経験から日本語教室の存在意義や支援者と学習者の関係づくりについて考える	大泉貴広 佐藤金枝	

(7) 参加者の募集方法

県内公民館、図書館、大学、国際交流協会、日本語教室等、幅広くチラシを送って広報した。静岡県の広報誌、静岡新聞に掲載された。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)



↑ 基調講演



↑ 参加者交流会としてブース出展している団体の中から10団体の代表者が独自教材や先進的な取り組みについて発表し、参加者同士の意見交換、情報収集の機会を設けた

(9) 取組の目標の達成状況・成果

来場者へアンケートを配布、101人の回答より60名が「非常によかった」37名が「よかった」4名が「まあまあ」という高評価を得た。特に日本語支援者として、学習者の社会参加までを見据え、互いに学びあうという姿勢に気づきを得た参加者が多かった。予想を上回る大勢の方に参加していただき、講義だけでなく参加者交流会では10団体の代表者に教材や取り組みの発表をしてもらったことで例年より参加者同士の交流を図ることができた。企画から運営まで県内6つの日本語学習支援団体に運営委員として参加してもらったため、運営委員同士の交流も推進された。年に一度、県内外より日本語支援者が顔を合わせる機会として、継続実施の要望を数多く受けている。

(10) 改善点について

当協会の職員が限られており、この規模のセミナーを実施するには人運営スタッフが足りない。今回は運営委員の体制をとり、協力をいただいたので、実施することができたが、やはり助成がないとこのような体制での実施は難しい。セミナーの規模、運営人数、事業内容そのものを見直し、全体的な規模の縮小もふまえて実施方法を再検討する必要がある。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

当協会が中核的役割を担い、日本人社員・外国人社員・日本語支援者の3者の連携を強化し、より多くの外国人住民が地域社会との接点をもつことを支援する。また、日常生活を豊かにするための日本語支援について再考する研修会及びセミナーを実施し、日本語支援者同士の情報共有を図るとともに、参加者が地域日本語教室の存在・活動意義について多角的な視点をもつことを目的とする。

(2) 事業目的の達成状況

外国人住民が地域社会との接点をもつことについては、単に日本語教室の運営や内容を工夫するだけでなく、幅広い地域リソースの把握と活用が求められると感じた。実施した全ての日本語教室が理想的な連携による日本語教室となったわけではないが、優良事例として他地域へ紹介できる日本語教室の取り組みも生まれた。成功事例となるような日本語教室を増やすための更なる課題(企業への具体的な協力依頼内容等)も明確になったため、取り組んだ成果は大きかった。また、日本語教室に関わった企業からは、事業開始当初には見られなかった日本語支援活動への協力姿勢や継続実施の要望を受けており、更なる連携の推進が期待できる。

研修会及びセミナーについては、予想以上の多くの方に参加していただき、アンケートコメントからも反応がよく、振り返りもしっかり設けたことから、支援者同士の横のつながりづくりや日本語支援に対する視野の拡張について達成できたと認識している。

(3) 地域における事業の効果、成果

どの学習者も意欲的に日本語学習に取り組み、日本語教室への参加を通して指導者やボランティアとの交流、文化体験など、積極的に参加したことで生活に広がりをもつことにつながった。また、学習者は生活における疑問やわからないことを日本語教室を通して知り、日本語の習得とあわせて生活文化や対人関係の構築等についても学ぶ機会となった。日本人社員には、日本語学習支援者や日本語教室の存在を知り、地域の国際交流協会や日本語支援団体とつながることの意義を取り組みを通して知ってもらうことができた。日本語指導者・ボランティアは、学習者の生活背景を理解し、教室外の生活に日本語学習の成果を活かすことについて気づきを得た。

研修やセミナーの取り組みを通して、支援者は学習者の声を引き出す工夫を考えたり活動に室外のプログラムを取り入れるなど、教科書中心の活動から新しい展開や試みも増え始めた。研修内容が既存の活動に気づきをあたえ、日本語学習支援活動や学習者に関わる人材が増えていくことで、日本語学習支援活動をより多くの人たちで支えていく、という体制の変容へとつながった。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

外国人社員向けの日本語教室実施を通して、日本人社員・外国人社員のコミュニケーション改善を目指したが、日本人社員の理解を得るためには通常の日本語学習支援の他にさまざまな工夫がいることを痛感した。また、より一層地域に開かれた日本語学習支援活動を増やすために、新しい活動を取り組み始めた指導者、ボランティアに対してのフォローアップ研修が必要である。

ii 今後の課題

外国人への日本語学習支援に留まらず、日本人社員への働きかけを強化し、就労現場でのコミュニケーションの変化まで拾っていききたい。日本人社員・外国人社員・日本語支援者の3者連携により就労生活へ変化が生じるようなモデルケースの日本語教室を増やし、他地域へ紹介していくことが新たな課題である。

地域日本語教育活動を更に活発化させるためには、日本語支援団体の代表が集まる会議や協議会形式ではなく、実際の日本語教室へボランティア参加したり、ボランティア同士の交流を図る機会が有益だと感じたため、互いの教室訪問など、行き来する機会を創出していくことが課題だと感じている。

iii 今後の活動予定

企業からの日本語教室の開催要望は増えているが、日本人社員の協力が欠かせないため、日本語教室の参加や日本人社員向けに研修会を実施するなど、更に企業側に具体的な協力体制を要請し、日本語教室の開催要望に応じていきたい。日本語支援者についてはフォローアップ講座などを実施し、支援者のスキルアップ向上に協力していく。多文化共生社会における地域日本語教室の存在意義や役割については今後もセミナーやシンポジウムの開催時に働きかけていく。

(5) その他参考資料

添付資料・・・「外国人社員のための日本語教室」チラシ、「やってみよう！日本語ボランティア対話活動のヒントとコツ」チラシ、「静岡県・日本語ボランティアセミナー」チラシ、当日プログラム、新聞記事